

第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議

□ 日 時

令和2年1月24日(金) 13:30~16:15

□ 会 場

郡山合同庁舎第1会議室



【主催者挨拶】

福島県教育委員会では、「本県の家庭教育推進上の大きな課題である『親の学び』を支援する」ことを目的として、平成26

年度より「地域でつながる家庭教育応援事業」を実施しております。事業計画の一つ目に「家庭教育応援プロジェクト」を位置付け、「福島県地域家庭教育推進協議会（年2回）」「地域家庭教育推進ブロック会議（各域内年2回）」「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」を実施しています。

事業計画の二つ目には「家庭教育応援リーダー育成事業」を位置付け、「家庭教育支援者全県研修」「家庭教育支援者地区別研修」により全県、及び各域内の家庭教育支援者の実践力向上を図っています。

今年度の第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議では、「地域や学校、関係機関における家庭教育上の現状と課題」というテーマで県中域内の家庭教育の現状と抱えている課題について活発に意見交換を行い、域内の家庭教育を推進する上での重点的な取組について共通理解を図ることができました。

第2回となる今回は、公益財団法人 星総合病院 法人こども事業部事務局長 法人広報部 課長 渡辺 由紀 氏より「公益財団法人 星総合病院 こども事業部の事業について」という題で情報提供をいただきました。後半は、「県中域内の家庭教育推進の経過と課題」というテーマで協議を行い、今年度、それぞれの立場で取り組んできた事例やそれぞれの地域で抱えている課題など、今後の家庭教育推進に向けての方向性について確認することができました。

【出席者】

- 県中ブロック会議 アドバイザー（学識経験者）
- 家庭教育推進アドバイザー
- 県中家庭教育インストラクターの会 会長
- 須賀川市家庭教育インストラクター
- 郡山青年会議所理事 青少年育成委員長
- 郡山市主任児童委員
- 須賀川市社会福祉協議会 岩瀬支所長
- 郡山警察署生活安全課少年係 少年警察補導員
- 県中児童相談所相談判定課 副主任児童福祉司
- 田村市保健福祉部こども未来課主任主査兼子育て応援係長
- 郡山市私立幼稚園・認定こども園PTA連合会 会長
- 郡山市PTA連合会 副会長（郡山市立薫小学校PTA顧問）
- 岩瀬郡PTA連合会 会長（須賀川市立柏城小学校PTA会長）
- 石川郡連合PTA 会長（玉川村立須釜中学校PTA会長）
- 田村地方PTA連合会 会長（三春町立三春中学校PTA会長）



【開会】

□ 日 程

時 間	内 容	
13:30～	開会行事	○ 主催者あいさつ ○ 日程説明
13:40～	事業報告	○ 県中教育事務所今年度の家庭教育に関する事業報告
13:55～	情報提供	○ 「公益財団法人 星総合病院 こども事業部の事業について」 公益財団法人 星総合病院 法人こども事業部 事務局長 法人広報部 課長 渡辺 由紀 氏
14:45～	休 憩	
14:55～	協 議	○ 「県中域内の家庭教育推進の経過と課題」 ・ それぞれの立場で取り組んできたこと ・ 日頃から感じたり、考えたりしていること
16:05	閉会行事	○ 御礼・諸連絡

事業報告

1 事業報告

担当より今年度実施した家庭教育関連事業の報告を行った。

- (1) 5月22日（水）第1回福島県地域家庭教育推進協議会
- (2) 6月14日（金）令和元年度第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議
- (3) 7月 6日（土）親子の学び応援講座 平田村立小平小学校PTA研修会
「子ども達を健康に導く運動プログラム
BALLGAME体験会」
- (4) 7月28日（日）家庭教育支援者全県研修
- (5) 8月18日（日）親子の学び応援講座 郡山市PTA連合会西ブロック研修会
SNS研修講座 演題「子どもが危ない！スマホ社会」
- (6) 12月 4日（水）県中域内家庭教育支援者研修会
- (7) 1月24日（金）令和元年度第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議
- (8) 2月 7日（金）第2回福島県地域家庭教育推進協議会（予定）

2 その他

- (1) 家庭教育応援企業推進事業
- (2) ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業



【事業報告】

情報提供 「公益財団法人 星総合病院 こども事業部の事業について」

公益財団法人 星総合病院 法人こども事業部 事務局長
法人広報部 課長 渡辺 由紀 氏

- 1 星総合病院こども事業部の概要
田村地域の保育園運営と地域医療を担う
- 2 台風19号による影響と対策・避難所支援活動
- 3 地域包括ケアシステムとは ～病気にならないためにも気軽に来れる病院を目指して～
高齢者支援から子育て支援まで
 - (1) 地域の活性化、健康づくり
 - ・ ほしの庭あおぞら市
 - ・ 健康体操
 - ・ 30分健康教室
 - (2) 地域に必要な事業創出
 - ・ みんなのバスツアー
 - ・ 昭和レトロカフェ 等
 - (3) ボランティアと共に地域づくり
- 4 郡山市「多機関による包括的支援体制構築事業」
幅広く困りごとを受け付け、しかるべき機関につなぐ。
 - 郡山市北東エリア「福祉まるごと相談窓口」を担当
 - ・ 50歳代、次いで40歳代と75歳以上の中高年からの相談が多い。
 - ・ 子どもの相談にも関わっている（1割程度）。
- 5 こども事業部の事業展開
4部門（保育、福祉、医療、相談）で展開している。
 - (1) 保育部門
様々な体験、交流、食育の活動を実施している。
 - ① 三春町第1保育所、第2保育所
 - ② ほしのご保育園（星総合病院敷地内）
 - ・ 医療的ケア児の保育、病児保育
 - ③ 星ヶ丘保育園
 - ④ 田村市船引保育所
 - ・ 令和2年度から業務委託
 - (2) 医療部門
 - ① 専門外来
（発達障がい外来、コミュニケーション外来、スポーツ外来、スキンケア外来等）
 - ② 周産期母子サポート活動（マタニティアクア、マタニティビクス、産後ケア事業等）
 - ③ 職場体験（小学生、中学生、高校生等それぞれを対象にしたイベントを開催）



【渡辺 由紀 氏による情報提供】

(3) 福祉部門

○ 大町キッズベースで多様な事業を展開している。

① 乳幼児一時預かり事業

② フリースクールほしくま（各学校との連携、不登校相談会開催）

③ 放課後児童クラブ、長期休暇中の児童クラブの開所

④ その他医療体験、食育体験事業

（医療体験キッズツアー、ほしくまみんなのキッチン、ほしくまあぐりキッズツアー）

(4) 相談部門

○ ほしくま児童家庭支援センター（令和元年9月開所 福島県で初 県中地域担当）

・ 不登校、虐待、引きこもり等の相談が多い。

・ 相談のべ件数 307件（相談元は医療機関、家庭、学校等様々である）

・ 相談実人数 29名 ※いずれも令和元年9月～12月実績

協議 「県中域内の家庭教育推進の経過と課題」

議長 地域家庭教育推進県中ブロック会議 アドバイザー 滝田 良子 氏

1 以下の点について各自2、3分で発表した。

○ 年間を通じて、それぞれの立場で家庭教育推進に向けて取り組んできたこと

○ 日頃から感じたり、考えたりしていること

<各推進委員より>

・ 公民館をベースに問題を抱えた人に来てもらい、専門機関や専門家へとつなぐコーディネーターとしての役割を務めた。

・ 家庭教育支援の役割を担う人材育成が課題である。

・ 家庭教育インストラクターを募集し、10人が新規登録した。

・ 児童を対象にした「こどもまつり」「わんぱくずもう」高校生を対象にした模擬選挙など、地域の青少年育成事業を実施した。

・ 発達障がいをもった方が50代、60代になっても生活しやすい社会づくりについて考えている。

・ 携帯、スマホに起因する事件が後を絶たない。また、言語力やコミュニケーション能力の低下にもつながっているように感じる。

・ 子どもを警察署に引き受けに来た保護者に指導・助言をするが、なかなか心に響かない。また、普段からコミュニケーションがとれていない親子、本心をぶつけ合っていない親子が増えているように感じる。

・ 問題を抱えている家庭で、発達障がいをもつ親、生育歴に問題がある親によるケースが多くなってきている。親子関係の再構築を支援していきたい。



【各推進委員からの報告】

- ・ 支援を要する子どもは年々増えているが、親の関わり方次第で改善できそうなケースも多くある。行政の窓口から見て、一人親の増加、他人からの助言がなかなか聞き入れられない親が増えているように感じる。
- ・ P T Aで「自立と思いやり」をテーマに学習会を行った。その他にも「子どもの靴選び」をテーマにした講演も行い、心身両面で子育て支援に取り組んできた。
- ・ スマホが原因の課題が多く聞かれる。親子で話し合ってルールを設定していけるようにしてほしい。また、親同士の横のネットワークによる情報交換を活性化できるようにしていきたい。
- ・ SNS、スマホに関して、ゲームなどで勝手に課金してしまう子ども、スマホを使い過ぎて子どもを止められない親の話など聞いたことがある。親子の普段からのコミュニケーションが大事なのではないか。自分も子どもとの触れあいをもつことに努めている。
- ・ P T A行事などへの参加の状況を見ると、P T Aが何のためにあるのか理解できていない家庭が多いように感じる。また、親子のコミュニケーションが希薄化している家庭が増えている。
- ・ P T Aで教育講演会など実施しているが、役員以外はほとんど参加していない。ぜひ聞いてほしい内容なのだが…。

2 出てきたことから協議テーマを絞り込み、小グループ（4～6人）で協議を行った。

<協議記録>

(1) Aグループ

学識経験者、家庭教育推進アドバイザー、家庭教育支援者、家庭教育インストラクター

○ 家庭教育支援者の後継者、人材育成

- ・ 須賀川市は、家庭教育インストラクターを募集し、就学児検診などで実際に活動している。ベテランのインストラクターも若い世代の方に積極的に活躍の場を与えて場数を踏ませるよう努めている。
- ・ 県でも家庭教育支援団体について実態調査を行っている。
- ・ 地区や町会の役員、P T Aの役員などの役職などがなかなか決まらないケースも多いようである。

(2) Bグループ

青年会議所、児童委員、少年警察補導員、社会福祉協議会、児童相談所、保健福祉部

○ 関係機関との連携、関係機関相互の連携



【家庭教育支援者の班】



【行政・企業の代表者の班】

- ・ 問題が顕在化してからの対応は困難な場合が多い。予防的な支援が重要である。
- ・ ケース会議の中で参加している関係諸機関が目標を共有した上でそれぞれの立場で対応することが必要である。

(3) Cグループ

P T A関係者

○ 家庭内のコミュニケーション、P T Aへの参加

- ・ 一緒に食事をする、あいさつをするなど、子どもとコミュニケーションをとっていくべきである。もちろん、食事中はスマホの使用はさせないようにする。
- ・ P T A行事への参加が減少している。役割を減らしたり、負担減など簡素化を進めている学校も多い。



【P T A代表の班】

3 まとめ (アドバイザーより)

- 子どもとのコミュニケーションが基本である。どうやったらコミュニケーションがとれるか継続して考えていかななくてはならない。
- 食事中にスマホをいじっていても、一日中使っている、まったく制限しない家庭が見られる。
- 子どもより自分の時間を優先している親に対して「だめな親だ。」で終わらせず、支援していきたい。社会全体の変革が求められる。
- その他にも肥満や体力の低下、読書離れなど多くの課題が未だ山積している。



【アドバイザーからの総括】